

平戸市地域公共交通網形成計画

【 概 要 版 】

平成31年3月

平 戸 市

目 次

第1章 平戸市の概況	1
1. 位置・沿革・人口	1
第2章 地域公共交通の現状	3
1. 公共交通ネットワークの整備状況	3
2. 利用者数	8
3. 市補助金推移	10
4. 公共交通空白地区（路線バス）の抽出	11
第3章 市民ニーズの把握	13
1. 調査概要	13
2. 調査結果要旨	13
第4章 事業者ニーズの把握	16
1. 調査概要	16
2. 事業者ニーズの主な意見と課題	16
第5章 平戸市地域公共交通網形成計画	17
1. 対象区域	17
2. 計画期間	17
3. 基本方針	17
4. 将来の公共交通ネットワーク体系	19
5. 計画目標	21
6. 目標達成のための施策展開	22
7. スケジュール	36

第1章

平戸市の概況

1. 位置・沿革・人口

(1) 人口推移

平戸市(以下「本市」という)は、九州の西、長崎県の北西端に位置し、平戸島、生月島、大島、度島、高島の有人島及び九州本土北西部の沿岸部に位置する田平と周辺の多数の島々で構成されている。

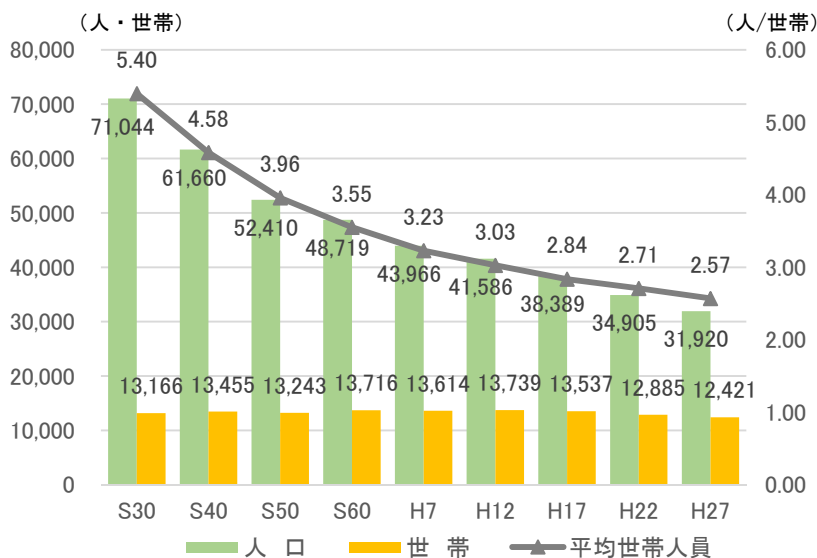
位置図



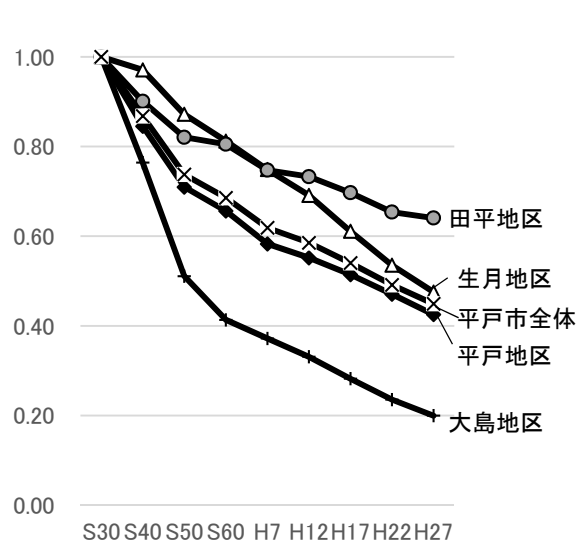
(2) 人口推移

平成 27 年国勢調査における本市の人口は 31,920 人と 5 年前に比べおよそ 3,000 人程度減少した。昭和 30 年と比較すると 45%程度の水準と急速な人口減少が進行している。地区別の人口推移をみると全ての地区で減少傾向にあるものの、大島地区の人口減少が最も進行している。

人口・世帯数・平均世帯人員



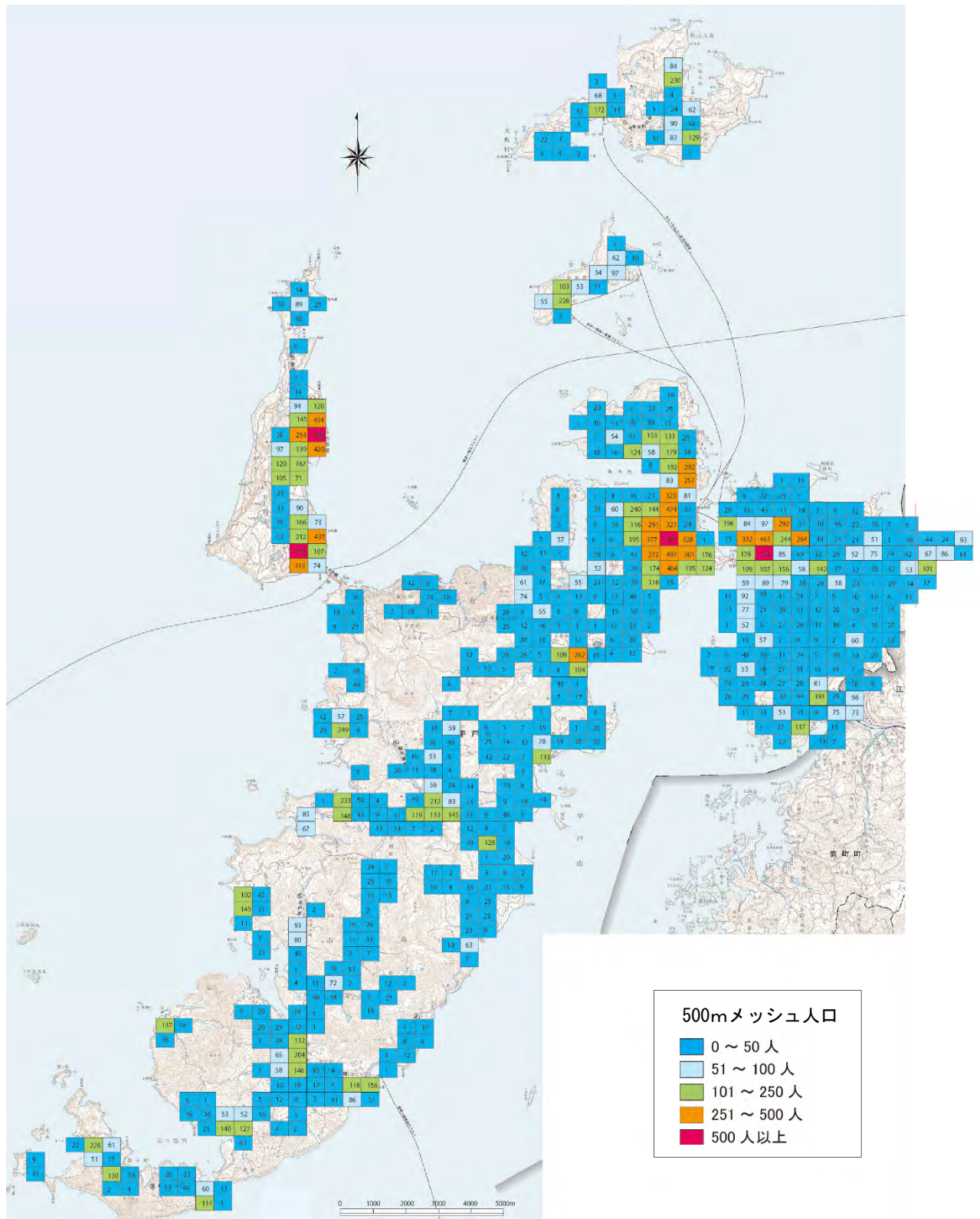
地区別人口推移 (S30=1.0)



(3) 人口分布

平成 27 年国勢調査における 500mメッシュの人口分布をみると、平戸島北部の市役所周辺や生月地域、田平地域の平戸大橋周辺で人口密度が高いエリアが見られるが、大部分は 50 人以下の低密度のエリアが広範囲に渡り広がっている状況にある。

500mメッシュ人口



資料) 平成 27 年国勢調査

第2章

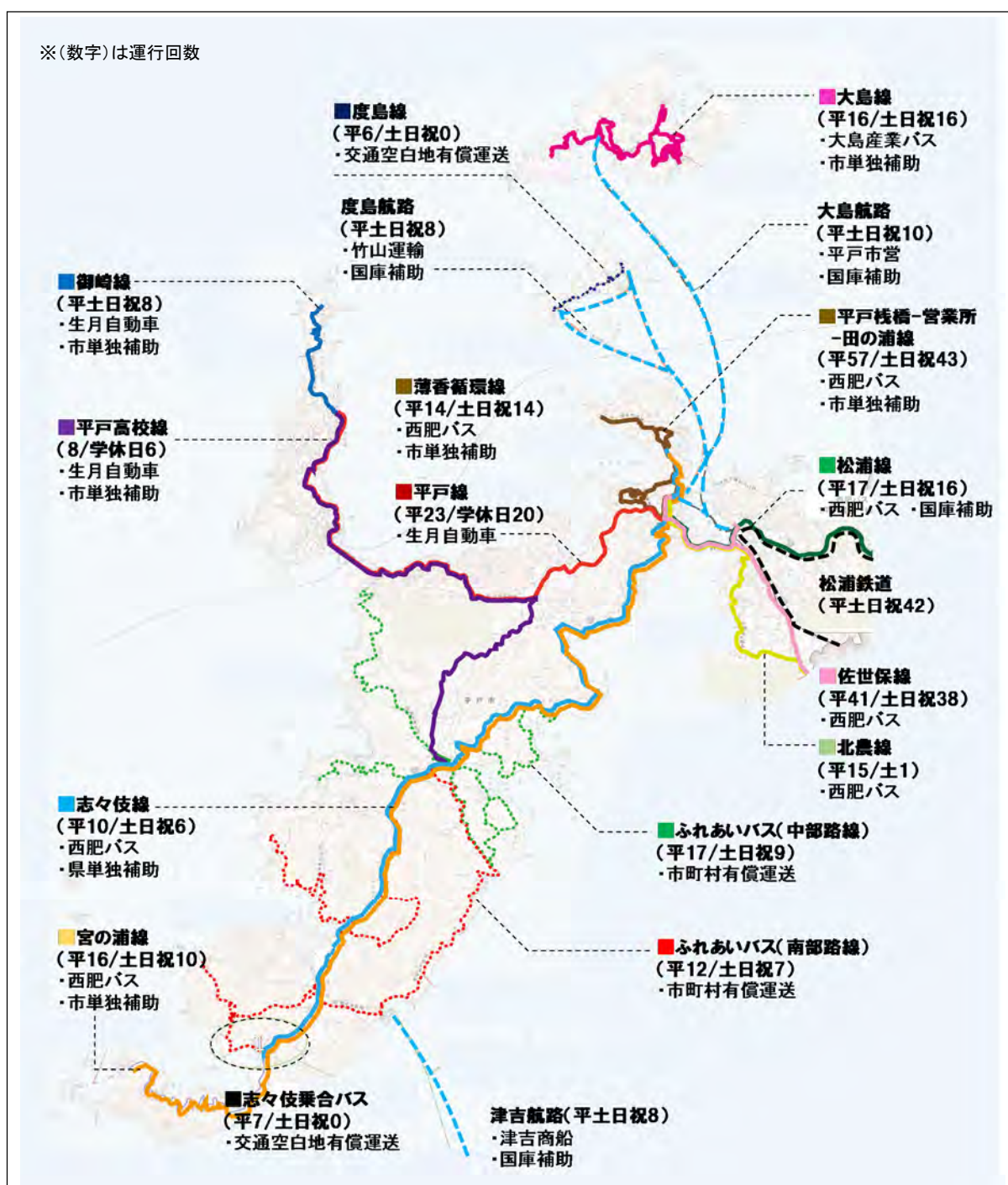
地域公共交通の現状

1. 公共交通ネットワークの整備状況

(1) 全体ネットワーク

本市の公共交通は、路線バス、定期航路、鉄道、地元まちづくり運営協議会等が運行するコミュニティ交通等により構成されている。

公共交通ネットワークの整備状況



公共交通ネットワークの整備状況(構造概念図)



公共交通体系の概要

		路線名	運行区分	支援区分	運行回数	
					平日	土日祝
鉄道	松浦鉄道	松浦鉄道	路線定期	負担金	42	42
路線バス (4条乗合)	西肥自動車	佐世保線	路線定期	－	22	20
		松浦線	路線定期	国庫補助	17	16
		志々伎線	路線定期	県単補助	10	6
		宮の浦線	路線定期	市単独補助	16	10
		田の浦・薄香線	路線定期	市単独補助	71	57
		北農線	路線定期	－	15	11
	生月自動車	御崎線	路線定期	市単独補助	8	8
		平戸高校線	路線定期	市単独補助	8	6
		生月平戸線	路線定期	－	23	20
	大島村産業	大島循環線	路線定期	市単独補助	11	11
		板の浦線	路線定期	市単独補助	5	5
市町村 有償運送	平戸市	ふれあいバス中部Aルート (大島村産業)	路線定期	業務委託	10	0
		ふれあいバス中部Bルート (大川陸運)	路線定期	業務委託	7	9
		ふれあいバス南部 (大川陸運)	路線定期	業務委託	12	7
交通空白地 有償運送	まちづくり 協議会	度島島内線	路線定期	(市補助)	6	0
	まちづくり 協議会	志々伎乗合バス (Aルート・Bルート)	区域不定期	(市補助)	5	0
					2	0
定期航路	竹山運輸	度島航路	路線定期	国庫補助	8	8
	平戸市	大島航路	路線定期	国庫補助	10	10
	津吉商船	津吉航路	路線定期	国庫補助	8	8
	宮の浦定期船組合	宮の浦－高島航路	路線定期	業務委託	10	0

資料)平成 30 年 9 月末現在

(2) 定期航路

本市の定期航路は、大島航路、度島航路、津吉航路の3航路及び民間委託による高島航路で構成されている。使用船舶及びダイヤ等は以下のとおりであるが、大島航路は平成31年3月1日から新船フェリー大島が就航している。一方、度島航路の第二フェリー度島は船齢が23年、津吉商船コバルト21は船齢21年と老朽化が進行している。一般的に旅客船の対応年数は20年～30年といわれており、第二フェリー度島、コバルト21もリプレイスの時期に達していると想定される。

①大島航路（平戸～大島）

	(主要諸元) 就航月日：2019年3月（船齢0年） 総トン数：272トン 航海速力：13.3ノット 旅客定員：150人 船会社：平戸市 所要時間：約40分 運賃：大人650円
---	---

大島航路ダイヤ

	的 山 発	田 平 着 / 発		平 戸 着 / 発		的 山 着
1便	7:00	7:45	7:48	8:00	8:25	9:05
2便	9:20	→	→	10:00	10:20	11:00
3便	11:20	→	→	12:00	13:00	13:40
4便	14:00	→	→	14:40	15:30	16:10
5便	16:30	→	→	17:10	17:45	18:25

②度島航路（平戸～度島）

	就航月日：2008年5月（船齢10年） 総トン数：199トン 航海速力：11.0ノット 旅客定員：95人 船会社：竹山運輸(有) 所要時間：約35分 運賃：大人640円
---	---

 第二フェリー度島	就航月日：1995 年 11 月（船齢 23 年） 総トン数：199 トン 航海速力：11.0 ノット 旅客定員：95 人 船会社：竹山運輸(有) 所要時間：約 35 分
---	---

度島航路ダイヤ

	本村発	飯盛 着／発		平戸 着／発		飯盛 着／発		本村着
1便	7:00	7:10	7:15	7:45	8:20	8:50	8:55	9:05
2便	9:10	→		9:45	11:30	12:00	12:05	12:15
3便	13:30	13:40	13:45	14:15	14:20	14:50	14:55	15:05
4便 (夏時間)	16:05	→		16:40	17:30	18:00	18:05	18:15
4便 (冬時間)	16:05	→		16:40	17:15	17:45	17:50	18:00

③津吉航路（佐世保～相浦～前津吉）

 コバルト 21	就航月日：1997 年 8 月（船齢 21 年） 総トン数：19 トン 航海速力：32.0 ノット 旅客定員：80 人 船会社：津吉商船(株) 所要時間： 前津吉～相浦～佐世保（約 60 分） 前津吉～佐世保（約 45 分） 運賃： 前津吉～相浦～佐世保（1650 円） 前津吉～佐世保（1070 円）
--	--

津吉航路ダイヤ

	前津吉発	相浦着／発		佐世保着／発		前津吉着
1便	7:40	8:08	8:10	8:40	9:00	9:45
2便	10:10	10:40	11:20			11:50
3便	13:00	→		13:45	14:30	15:15
4便	16:00	→		16:45	17:20	18:05

2. 利用者数

公共交通機関の利用者数は、一部を除き、陸上・海上交通の大部分で減少傾向にある。特に減少率が高いのは志々伎線、御崎線、平戸高校線、度島島内線で、直近1年間で10%以上の減少が見られた。なお、津吉航路は直近年で利用者が増加しているが、10年前に比べると半数程度まで減少している。

図表 3-7 利用者数の推移

(人)

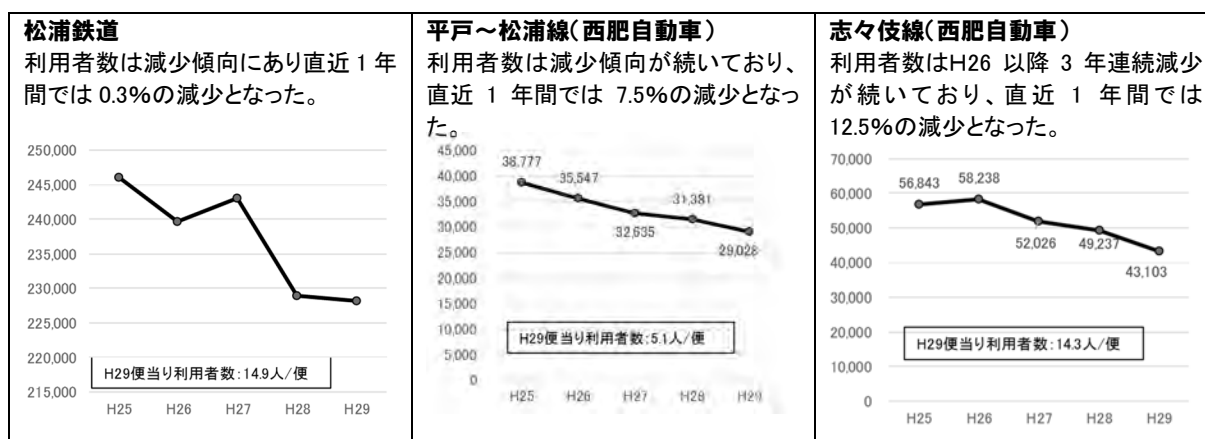
事業者名			区分		区間		利用者数								直近増減	
							H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度		H27年度
陸上	松浦鉄道(株)		平戸市内	265,501	236,684	275,232	269,154	268,840	271,984	246,117	239,744	243,115	228,846	228,124	↘	-0.3%
	西肥自動車(株)	国庫補助路線	平戸～松浦線	39,327	39,312	38,533	37,274	37,361	39,119	38,777	35,547	32,635	31,381	29,022	↘	-7.5%
		県単独補助路線	志々伎線	82,516	—	71,898	69,923	66,398	69,632	56,843	58,238	52,026	49,237	43,103	↘	-12.5%
		市単独補助路線	田の浦・薄香線	40,827	—	35,767	35,599	34,544	35,068	37,407	36,288	33,107	32,349	30,168	↘	-6.7%
			宮の浦線	118,902	—	111,388	104,951	102,979	108,096	80,675	86,593	80,780	71,439	65,080	↘	-8.9%
	生月自動車(有)	市単独補助路線	御崎線	11,395	9,804	7,633	6,178	5,621	5,309	4,425	3,791	2,890	2,657	2,298	↘	-13.5%
			平戸高校線	—	—	—	—	—	—	2,213	5,920	7,242	6,882	5,972	↘	-13.2%
	大島村産業	市単独補助路線	6路線	13,680	14,835	14,007	11,485	9,883	13,845	14,972	15,231	15,029	12,797	14,010	↗	9.5%
	NPO法人 度島地区 まちづくり運営協議会	公共交通空白地 有償運送	度島島内線	—	—	—	—	—	—	—	—	4,453	4,954	3,700	↘	-25.3%
	志々伎地区まちづくり 運営協議会	公共交通空白地 有償運送	志々伎町 ～市民病院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	172	395	↗	129.7%
	平戸市 (ふれあいバス)	市町村運営有償運送	中部Aルート	—	—	—	—	—	—	—	2,560	5,599	6,738	6,110	↘	-9.3%
		市町村運営有償運送	中部Bルート	—	—	—	—	—	—	—	2,641	5,603	5,500	5,215	↘	-5.2%
		市町村運営有償運送	南部ルート	—	—	—	—	—	—	—	3,529	9,237	9,485	9,116	↘	-3.9%
海上	竹山運輸(有)	国庫補助航路	平戸～度島	77,738.0	80,017.5	80,121.5	81,287.5	82,796.5	77,513.0	83,559.0	84,154.5	84,806.5	83,852.0	82,827	↘	-1.2%
	平戸市 (大島交通船)	国庫補助航路	平戸～大島	84,027.0	84,446.0	84,428.0	79,891.0	80,624.5	94,247.0	95,611.5	90,904.0	94,077.5	92,716.5	95,422	↗	2.9%
	津吉商船(株)	国庫補助航路	前津吉～佐世保	11,426.5	10,452.0	8,947.0	7,371.5	6,091.0	5,589.0	5,256.5	5,197.5	5,217.5	5,290.0	5,343	↗	1.0%
	宮の浦定期船組合	市単独委託航路	宮の浦～高島	825	974	913	639	614	891	1,166	1,103	817	807	903	↗	11.9%

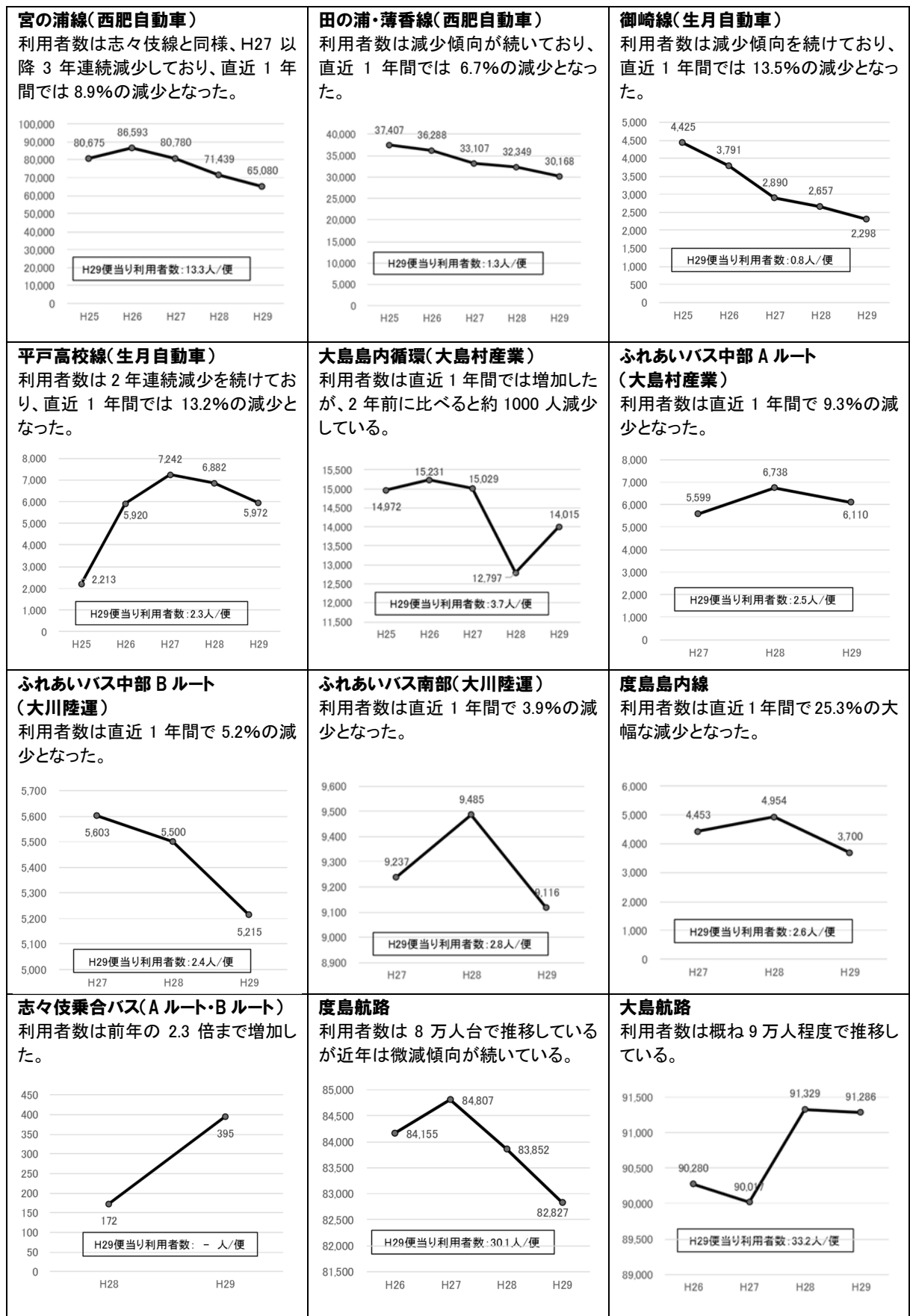
注) ・松浦鉄道は、東田平駅、中田平駅、たびら平戸口駅、西田平駅における乗降者数

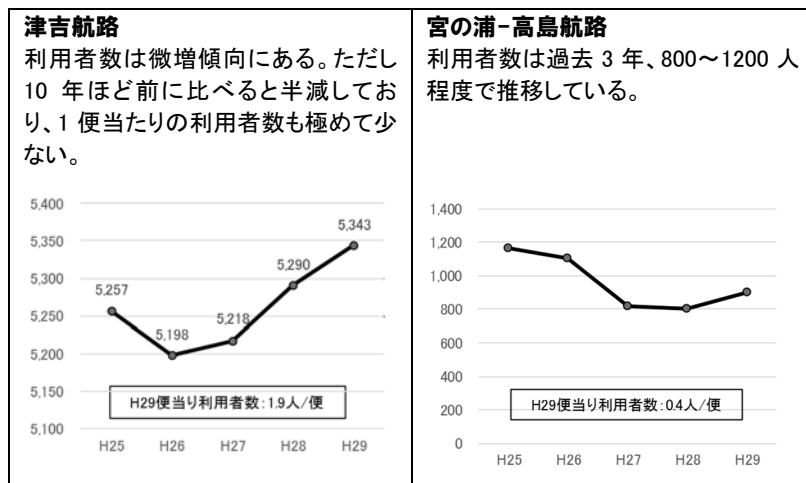
・度島航路、津吉航路の利用者数は10月～9月の利用者数

・大島航路の利用者数は4月～3月の利用者数

図表 3-8 路線別利用者数の推移

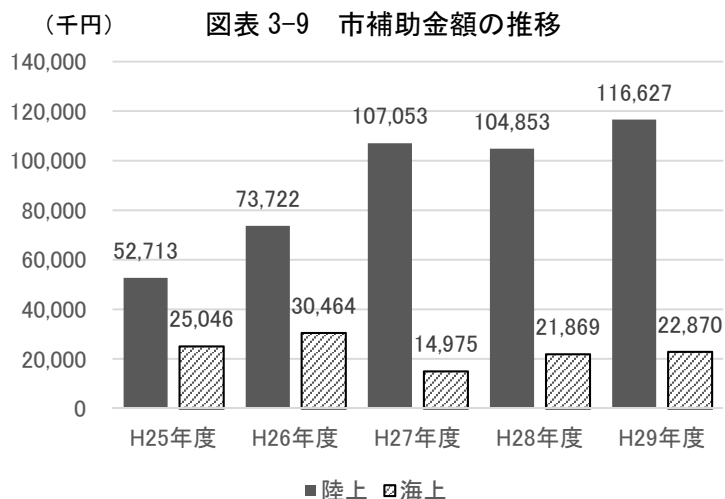






3. 市補助金推移

公共交通の維持に係る市補助金額は、陸上交通は増加傾向にあり、平成29年度では5年前の2倍以上にあたる116,627千円となった。一方、海上交通については定期検査の実施時期により前後し、年間1,500万円~3,000万円で推移している。



図表 3-10 平戸市地域公共交通関連補助金推移

(千円)

種別	区分	区間	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
陸上	鉄道施設整備事業補助金		6,805	7,314	7,208	7,236	7,634
	国庫補助路線	1路線	2,510	4,859	6,746	5,289	6,572
	県単独補助路線	市内1路線	8,355	9,103	10,219	10,117	10,030
	市単独補助路線	市内10路線	35,043	42,467	58,383	56,688	64,712
	公共交通空白地有償運送	市内2か所	-	-	210	788	1,475
	市町村運営有償運送(委託)	市内3ルート	-	9,979	24,287	24,735	26,204
小計			52,713	73,722	107,053	104,853	116,627
海上	国庫補助路線	市内2航路	22,481	28,037	13,178	20,094	20,883
	市単独補助路線(委託)	宮の浦~高島	2,565	2,427	1,797	1,775	1,987
小計			25,046	30,464	14,975	21,869	22,870

資料) 平戸市

4. 公共交通空白地区（路線バス）の抽出

(1) 公共交通空白地区の選定基準

一般的にバス停から一定距離があり、路線バスが走行していない地域は「公共交通空白地区」と呼ばれ、乗合タクシー等の移動支援が行われている。公共交通空白地区について国や県等において明確な選定基準はなく、本市においてもこれまで規定はなされていないが、本計画策定にあたり、今後、優先的に移動支援を行う地区として、次のとおり公共交通空白地区の選定基準を定める。

平戸市公共交通空白地区認定基準（案）

①②をともに満たす地区を「公共交通空白地区」という。なお、同地区は、路線バスの廃止やルート変更等により新たに発生する場合も適用する。

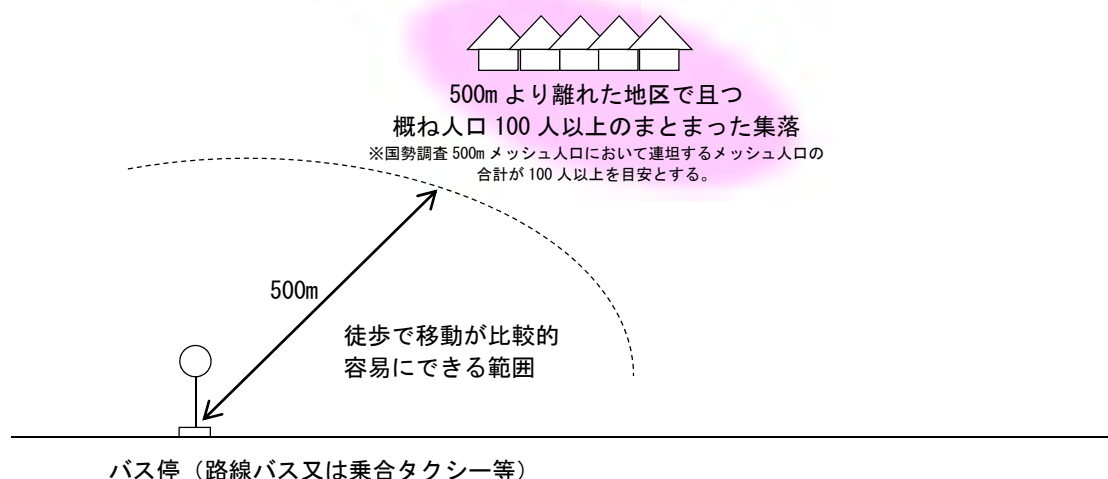
①定時定路線のバス停（乗合タクシー含む）から 500m以上離れた地区

理由：内閣府「歩いて暮らせるまちづくりに関する世論調査（平成 21 年 7 月）」において、70 歳以上の 30.5%は“歩いていける範囲”が 500m 以内と回答。この結果から徒歩移動の 500mが徒歩での移動の一つの分岐点になると想定した。

②集落人口が概ね 100 名以上の地区

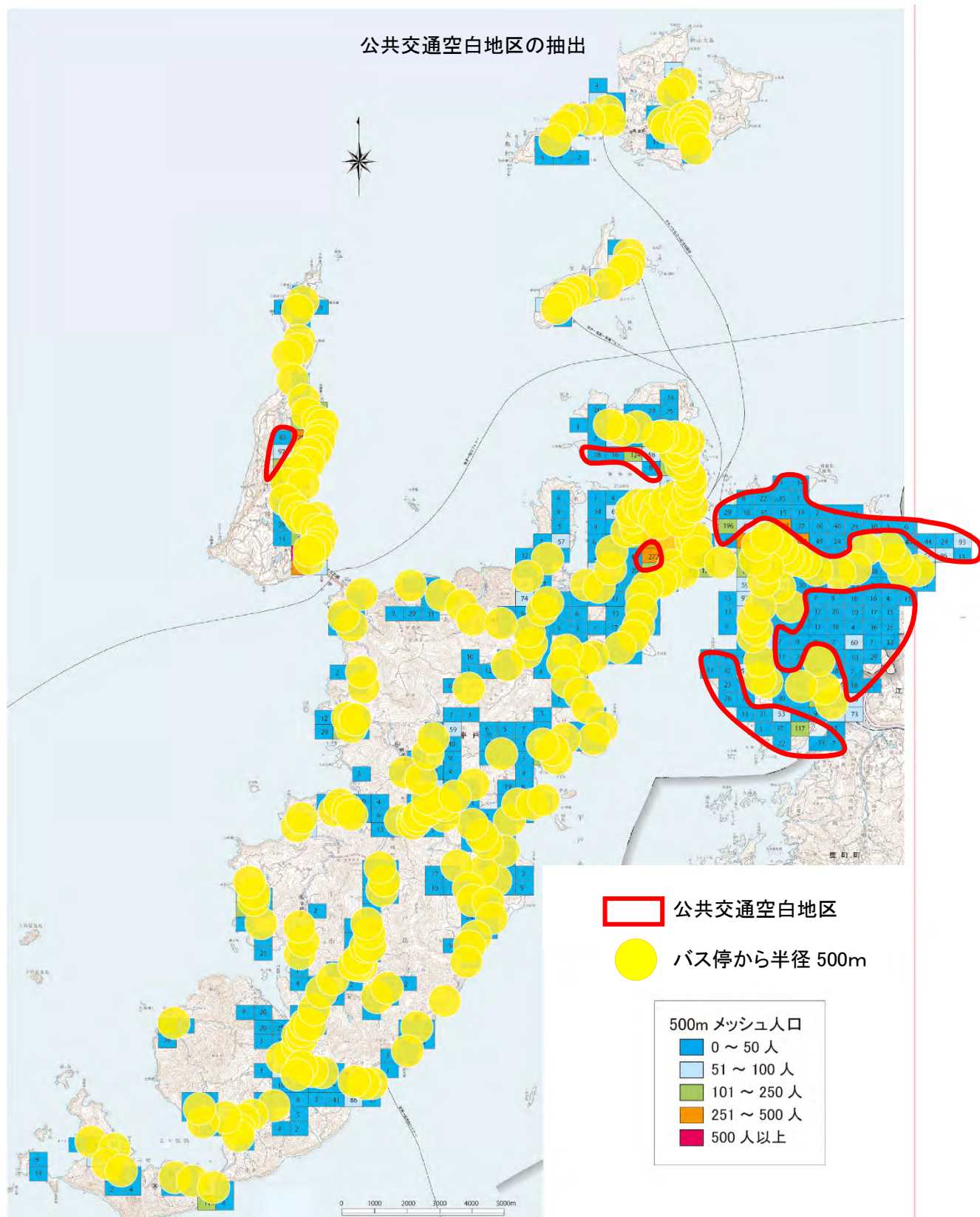
理由：今後、乗合タクシー等の交通空白地区対策を実施する場合、一定の費用対効果を考慮する必要がある。今回実施したアンケート調査から推計した結果、国勢調査 500mメッシュ人口で連坦するメッシュ人口の合計が 100 名以上の集落において、路線バスや送迎により週 1 回以上通院する人が、最低 1 名以上存在するため。

公共交通空白地区の認定基準イメージ



(2)公共交通空白地区の抽出

(1) の設定基準（バス停から 500m 以遠且つ人口 100 名以上の集落）を用いた場合、現行の路線バス体系では、田平地区に公共交通空白地区が発生する。これらの地区では、今後、地元ニーズの把握を含め交通空白地区対策の検討が求められる。また、今後、バス路線の再編等により新たに公共交通空白地区が発生する場合も同様の対策が必要である。



第3章

市民ニーズの把握

1. 調査概要

公共交通に関する市民の利用状況や要望などを把握するために、次のとおり市民アンケート調査と高校生アンケート調査を実施した。（結果詳細は巻末に示す）

市民ニーズ調査実施概要

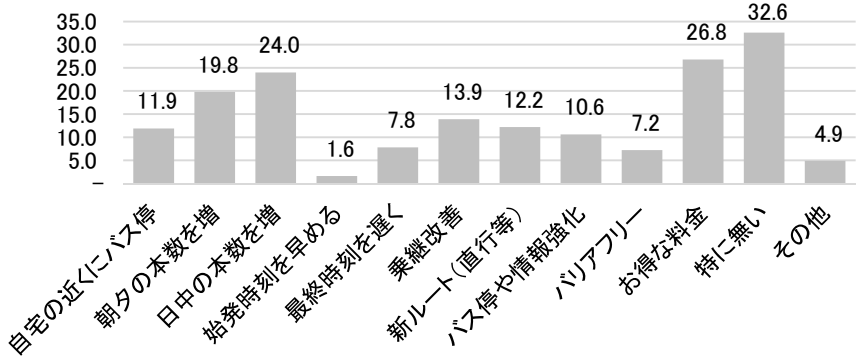
	市民アンケート調査	高校生アンケート調査
調査対象	平戸市在住 3,000 名	猶興館高校、平戸高校、北松農業高校の全生徒
調査時期	平成 30 年 7 月	平成 30 年 7 月
調査方法	郵送による配布・回収	学校からの配布・回収
回収数	1,090 票（回収率 36.3%）	648 票（猶興館高校 307 票、平戸高校 100 票、北松農業高校 241 票）
調査内容	・ 日常的な移動方法 ・ 公共交通機関の利用状況 ・ 新交通システムに対するニーズ等	・ 通学方法 ・ 公共交通機関の問題点 ・ 今後の公共交通機関の利用可能性等

2. 調査結果要旨

（1）市民アンケート調査結果要旨

市民アンケート調査結果要旨

	市民アンケート調査要旨
医療機関への 通院頻度	「月 1 回」が 37.4%で最も多く、「週 1 回以上」は 5.1%にとどまっている。年代別でみると、高年代ほど通院頻度が高くなり、80 代以上では「月 1 回以上」が 89.5%となる。地区別では度島の通院頻度が比較的高い結果となっている。
通院の際の 移動手段	「自家用車（自運転）」が 68.7%で最も多く、「家族の送迎」が 12.5%で続いている。年代別では 80 代以上の 3 割は家族の送迎となっている。また、70 代以上では「路線バス」も 10%以上と他の年代に比べ比較的高い結果が見られた。
路線バスの	「1 年間使っていない」が 59.9%で最も多く、「年数回程度」が 12.7%で続

利用頻度	いている。 年代別でみると、高年代ほど利用頻度が高く、80代以上では年数回以上が50%を超えている。地区別では、度島、大島が他地区に比べ非常に利用頻度が高い特徴がみられた。																										
路線バスの利用目的	「通院」が42.2%で最も多く、「買物」が24.7%で続いている。 年代別でみると、高年代ほど「通院」と「買物」の比率が高くなり、80代ではほぼ100%となる。 地区別では、生月と南部で通院目的の利用が6割を超えているが、北部ではその他利用が35.7%と高い。																										
路線バスの利便性	「どちらかといえば不便」が27.1%で最も多く、「普通」が24.6%で続いている。 地区別でみると、田平や中野、度島、生月での不満度が高い特徴が見られる。中野地区は満足度も高く、同地区内で評価が分かれる傾向がうかがえる。																										
路線バスで改善して欲しい点	「特に無い」が32.6%で最も多く、「料金設定」、「日中の本数」などが続いている。  <table border="1"> <thead> <tr> <th>改善点</th> <th>割合 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自宅の近くにバス停</td> <td>11.9</td> </tr> <tr> <td>朝夕の本数を増</td> <td>19.8</td> </tr> <tr> <td>日中の本数を増</td> <td>24.0</td> </tr> <tr> <td>始発時刻を早める</td> <td>1.6</td> </tr> <tr> <td>最終時刻を遅く</td> <td>7.8</td> </tr> <tr> <td>乗継改善</td> <td>13.9</td> </tr> <tr> <td>新ルート(直行等)</td> <td>12.2</td> </tr> <tr> <td>バス停や情報強化</td> <td>10.6</td> </tr> <tr> <td>バリアフリー</td> <td>7.2</td> </tr> <tr> <td>お得な料金</td> <td>26.8</td> </tr> <tr> <td>特に無い</td> <td>32.6</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>4.9</td> </tr> </tbody> </table>	改善点	割合 (%)	自宅の近くにバス停	11.9	朝夕の本数を増	19.8	日中の本数を増	24.0	始発時刻を早める	1.6	最終時刻を遅く	7.8	乗継改善	13.9	新ルート(直行等)	12.2	バス停や情報強化	10.6	バリアフリー	7.2	お得な料金	26.8	特に無い	32.6	その他	4.9
改善点	割合 (%)																										
自宅の近くにバス停	11.9																										
朝夕の本数を増	19.8																										
日中の本数を増	24.0																										
始発時刻を早める	1.6																										
最終時刻を遅く	7.8																										
乗継改善	13.9																										
新ルート(直行等)	12.2																										
バス停や情報強化	10.6																										
バリアフリー	7.2																										
お得な料金	26.8																										
特に無い	32.6																										
その他	4.9																										
問題点が改善ができた場合の利用頻度の変化	「増加すると思う」が40.1%と一定の潜在需要が確認された。 年代別では70代や30代で多く、地区別では田平地区で50.0%と特に高い傾向がみられた。																										
今後の公共交通のあり方	今後の公共交通のあり方について「ある程度必要なサービス水準を確保しつつ、可能な範囲で効率化」が36.7%で最も多く、「現状維持」が28.7%で続いている。																										
新しい交通手段の導入について	新交通システムの導入については、「利用するかわからないが推進すべき」が48.7%で最も多く、「自分も利用したい」が22.6%で続いており、概ね7割の市民は導入に肯定的な意向を示している。 年代別では特に高齢層の期待が高く、地区別では度島や中野、生月、田平での期待度が高い。																										
定期航路の満足度	南部は津吉航路の利用が多いと想定されるが、全体的に満足度が高く、特に船員マナーに対する満足度が高い。大島地区では、待合所の環境や船員マナーの満足度が特に高い一方、路線バスとの接続の満足度が低い。度島地区では、ダイヤ、便数、運賃とともにマイナス評価となっているなど、比較的問題意識が強い結果となっている。																										

(2) 高校生アンケート調査結果要旨

高校生アンケート調査結果要旨

	高校生アンケート調査要旨
通学手段 (往路)	「家族等の送迎」が 39.8%と最も高く、次いで「バス」が 30.2%となっている。高校別で見ると猶興館高校と平戸高校は「家族等の送迎」が最も高く、北松農業高校は「松浦鉄道」が最も高く 48.1%となっている。
通学手段 (復路)	「バス」が 35.5%と最も高く、次いで「家族等の送迎」が 30.7%となっている。高校別で見ると猶興館高校は「バス」が 43.0%、平戸高校は「家族等の送迎」が 56.0%北松農業高校は「松浦鉄道」が 53.5%とそれぞれ最も高くなっている。
通学における 公共交通の 満足度	通学にバス、鉄道等の公共交通機関を利用している回答者（以下、公共交通利用者）が通学における公共交通について感じている状態は、「満足である」が 37.5%で最も高い。 高校別で見ると平戸高校と北松農業高校は「満足している割合」が最も高く、猶興館高校は「どちらともいえない」が 37.8%で最も高くなっている。
公共交通を利用し やすくするために 必要なこと	（公共交通利用者） 「運行本数を増やす」が 83.1%と最も高く、次いで「料金を安くする」が 41.5%となっている。 高校別で見ると猶興館高校は「運行本数を増やす」が 83.2%、「料金を安くする」が 45.4%平戸高校は「運行本数を増やす」が 79.3%、「料金を安くする」が 51.7%、北松農業高校は「運行本数を増やす」が 83.6%、「料金を安くする」が 37.3%となっている。
	（公共交通未利用者） 「運行本数を増やす」が 61.5%と最も高く、次いで「料金を安くする」が 31.7%となっている。 高校別で見ると猶興館高校は「運行本数を増やす」が 62.8%、「料金を安くする」が 36.2%、平戸高校は「運行本数を増やす」が 57.1%、「料金を安くする」が 27.1%、北松農業高校は「運行本数を増やす」が 62.5%、「料金を安くする」が 23.4%となっている。
公共交通を利用し ない理由(公共交 通未利用者)	「家族等に送迎してもらっている」が 70.8%と最も高く、次いで「徒歩または自転車で通学ができる」が 22.7%となっている。 高校別で見ると猶興館高校は「家族等に送迎してもらっている」が 65.4%、「徒歩または自転車で通学ができる」が 32.4%、平戸高校は「家族等に送迎してもらっている」が 82.9%、「通学時間帯にバスや鉄道がない」が 12.9%、北松農業高校は「家族等に送迎してもらっている」が 73.4%、「自宅からバス停や駅まで遠い」が 14.1%となっている。
問題点が改善さ れた場合の公共 交通を利用可能 性(公共交通未利 用者)	「ないと思う」が 37.0%と最も高く、次いで「わからない」が 32.9%となっており、「あると思う」は 26.1%となっている。高校別で見ると猶興館高校は「ないと思う」が 44.1%、「あると思う」は 19.7%、平戸高校は「あると思う」が 34.3%、「ないと思う」が 24.3%、北松農業高校は「ないと思う」が 35.9%、「あると思う」が 29.7%となっている。

第4章

事業者ニーズの把握

1. 調査概要

公共交通の維持活性化及び再編に関する事業者のニーズを把握するために、下記のとおりヒアリング調査を行った。

事業者ヒアリング実施数

路線バス事業者	3 社
鉄道事業者	1 社
タクシー事業者	4 社
定期航路事業者	3 社

2. 事業者ニーズの主な意見と課題

図表 5-2 事業者ヒアリング結果要旨

区分	視点	主な共通意見	検討課題
陸上交通	効率化に対する基本的な認識	- 利用者の減少が進み、経営環境は一層厳しさを増している。 - 効率化など経営改善の意識は強いが、高校生や高齢者の通院利用など不可欠なものが多く、難しい側面がある。	利用者の利便性を踏まえた、可能な範囲での効率化の検討
	ドライバー不足への対応	- ドライバー不足が深刻な状態で、将来的に路線の維持に影響を及ぼす可能性もある。 - ドライバー不足を主因に新規路線への参入などは難しい状況がある。(一方で予約制の導入など条件次第では可能性がある)	ドライバー不足など、厳しい経営環境を考慮した路線維持方策の検討と、必要な新交通システムの導入
海上交通	二次交通との接続問題	陸上交通との接続は概ね良好だが、引き続き状況を見ながら接続利便性を高める必要がある。	陸上ダイヤとの接続強化
	観光連携	補助航路であるため、割引商品などの導入は難しい。結果、観光商品などの造成につながっていない。(営業活動も手薄な状況)	可能な範囲での観光との連携
	船舶老朽化	船舶の老朽化が進行している。	計画的なリプレイス
	航路再編	- 度島航路と大島航路は利用者の行動時間帯も同様で、且つ係船環境も大きく異なるため経営統合は現実的に不可能であり、個別航路として維持・活性化を図るべきである。 - 津吉航路も黒島航路と近い航路であるが、補助要件や係船設備の違いより航路統合は現実的ではない。	現行航路の維持を基本とした活性化の推進

第5章

平戸市地域公共交通網形成計画

1. 対象区域

本計画の対象区域は、平戸市全域とする。

2. 計画期間

本計画の期間は、平成 31 年（2019 年）から平成 36 年（2024 年）までの 6 年間とする。
計画期間中の変更については適宜対応する。

3. 基本方針

（1）将来像

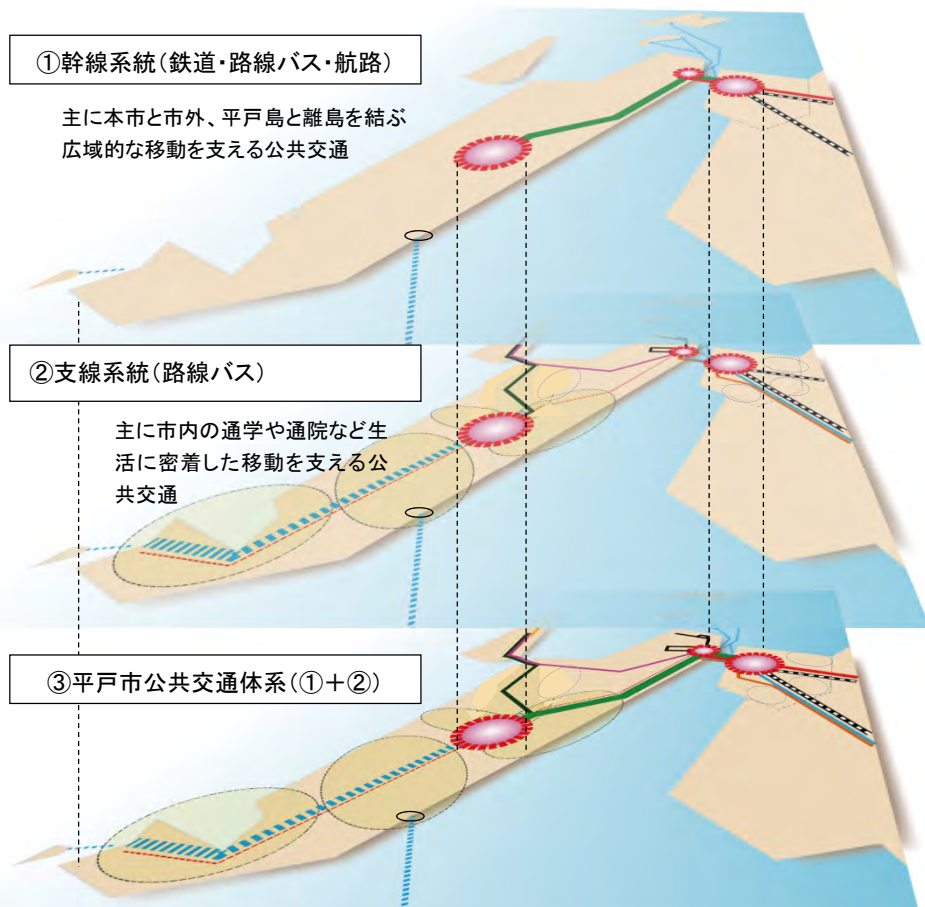
「路線バス」＋「鉄道」＋「航路」の効果的なネットワークによる
持続可能で便利に移動できるまちづくり

本市の公共交通は、学生の通学をはじめ、高齢者を中心とした市民の通院や買物などの日常的な市内外の移動に欠かせない貴重な公共インフラである。同時に、世界文化遺産をはじめ多くの観光資源を抱える本市にとっては、観光客の移動手段としても重要な役割を担っている。

こうした中、本市の公共交通は、人口減少や少子高齢化により、利用者の減少が進み、一部の路線では維持のために行政の財政負担が必要になるなど、経営環境は非常に厳しい状況を迎えている。

以上を踏まえ、本市の公共交通は、これまでどおり、市民や観光客の移動に欠かせない重要な公共インフラであるという基本認識のもと、路線バス、鉄道、航路のそれぞれの役割と機能を明確にし、相互連携による効率的なネットワークを構築することで、将来に渡り持続可能で利便性の高い公共交通サービスを提供することを目指す。

幹線系統・支線系統の重なり状況



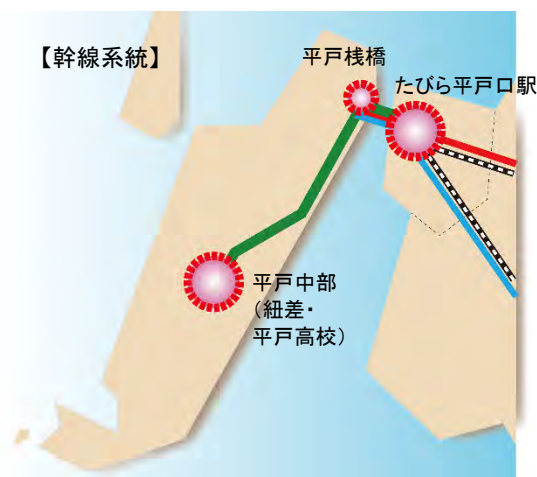
(2) 基本方針

①市内外の広域移動を支える幹線系統ネットワークの形成

本市の幹線系統は、市内外の広域移動を支える路線として、たびら平戸口駅、平戸栈橋、平戸中部の3つの交通結節点を結ぶ路線バス系統を中心に、本市と佐世保市及び松浦市を結ぶ路線バス系統、松浦鉄道位置づける。

幹線系統ネットワークは、持続可能性と利便性に配慮した便数・ダイヤ設定を基本に、路線バス及び鉄道、定期航路の各モード間の接続強化を図る。また、各交通結節点では、情報発信機能や待合機能の整備・充実を図る。

幹線系統ネットワークの概要



②身近な生活を支える支線系統（コミュニティ交通）ネットワークの形成

本市の支線系統は、主に市内の通学や高齢者など交通弱者の通院・買物、更には今後増加が期待される観光客の移動など、生活に密着した身近な移動を支える公共交通として、地域の実情・需要に応じ、路線バスや乗合タクシーなど多様な移動手段によるネットワークの構築を図る。

支線系統ネットワークの概要



③離島と平戸島を安全で快適に結ぶ

海上交通ネットワークの形成

海上交通ネットワークは、離島と平戸島・平戸島と佐世保市を結ぶ必要不可欠な生活航路としての維持・活性化を図ることを基本に、老朽船舶の計画的な更新による経費削減、陸上交通機関との接続を考慮したダイヤ設定や情報発信の強化などにより、効率的で利便性の高いネットワークを構築する。

④持続可能な運営のための利用促進策の導入と意識啓発

本市の公共交通体系が安定的で持続可能であるためには、マイカー利用者を含む市民一人ひとりが公共交通機関を必要不可欠な都市インフラとして意識し、一人でも多くの市民に利用してもらうことが重要である。

そのため、市民に向けた意識啓発に継続的に取り組むとともに、福祉や商業など多様なまちづくり施策と連携した利用促進を図る。また、今後は、観光客の利用促進も重要な視点であることから、国内外の観光客が利用しやすいよう、ハード・ソフト両面のバリアフリー化を進めるとともに、観光施策と連携した利用促進を図るものとする。

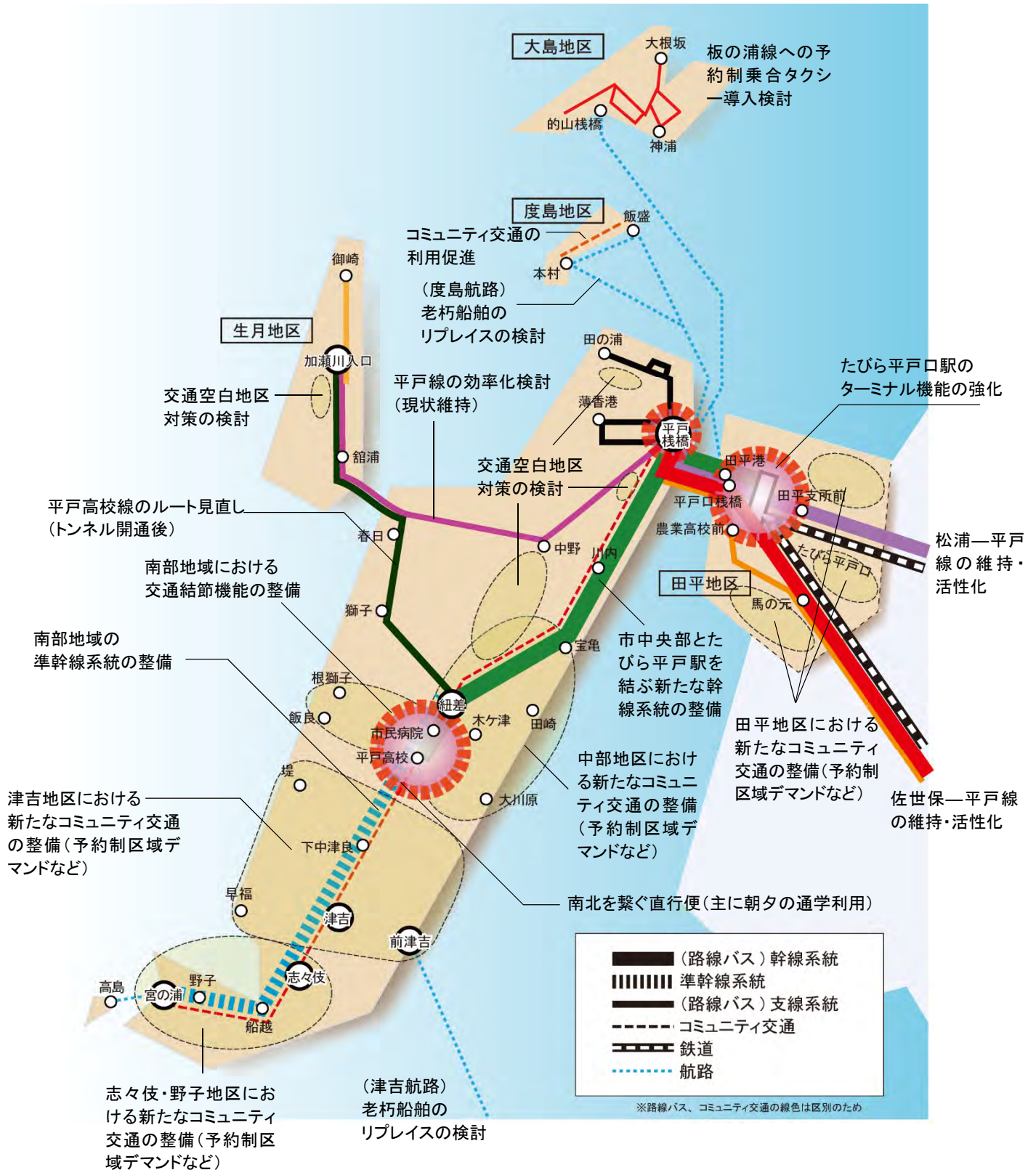
4. 将来の公共交通ネットワーク体系

たびら平戸口駅、平戸栈橋、平戸中部の3つの交通結節点を中心に、市内外の広域移動を支える幹線系統ネットワークと、通院・通学などの身近な生活を支える支線系統ネットワーク、更には、離島島民の生活に不可欠な海上交通ネットワークの効率的で効果的な連携による公共交通体系を構築する。

現行の平戸市公共交通ネットワーク



将来の平戸市公共交通ネットワークと主な施策



5. 計画目標

本計画の進行管理の基本指標として、次のとおり基本方針に基づく成果指標を設定する。

計画目標

基本方針	成果指標		現状	目標 (平成 36 年) 2024 年
①市内外の広域移動を支える幹線系統ネットワークの形成	ア)佐世保—平戸線(路線バス)の平戸棧橋での乗者数		13,350 人 (H29)	13,700 人
②身近な生活を支えるコミュニティ交通ネットワークの形成	イ)地域主体の新交通システム導入数		2 地区 (H30 現在)	4 地区
③離島と本土を安全で快適に結ぶ海上交通ネットワークの形成	ウ)定期航路利用者数		182,295.5 人 (H29)	156,000 人
④持続可能な運営のための利用促進策の導入と意識啓発	エ)利用促進事業数		1 事業 (H30)	3 事業
	オ)コミュニティ交通の利用促進	度島コミュニティ交通の1便当たり利用者数	2.6 人/便 (H29)	2.6 人/便
		志々伎コミュニティ交通(予約制)の稼働率	46.7% (H29)	46.7%
	カ)高校生の通学における公共交通利用率(アンケート調査結果)		53.8%※1 (H29)	55%

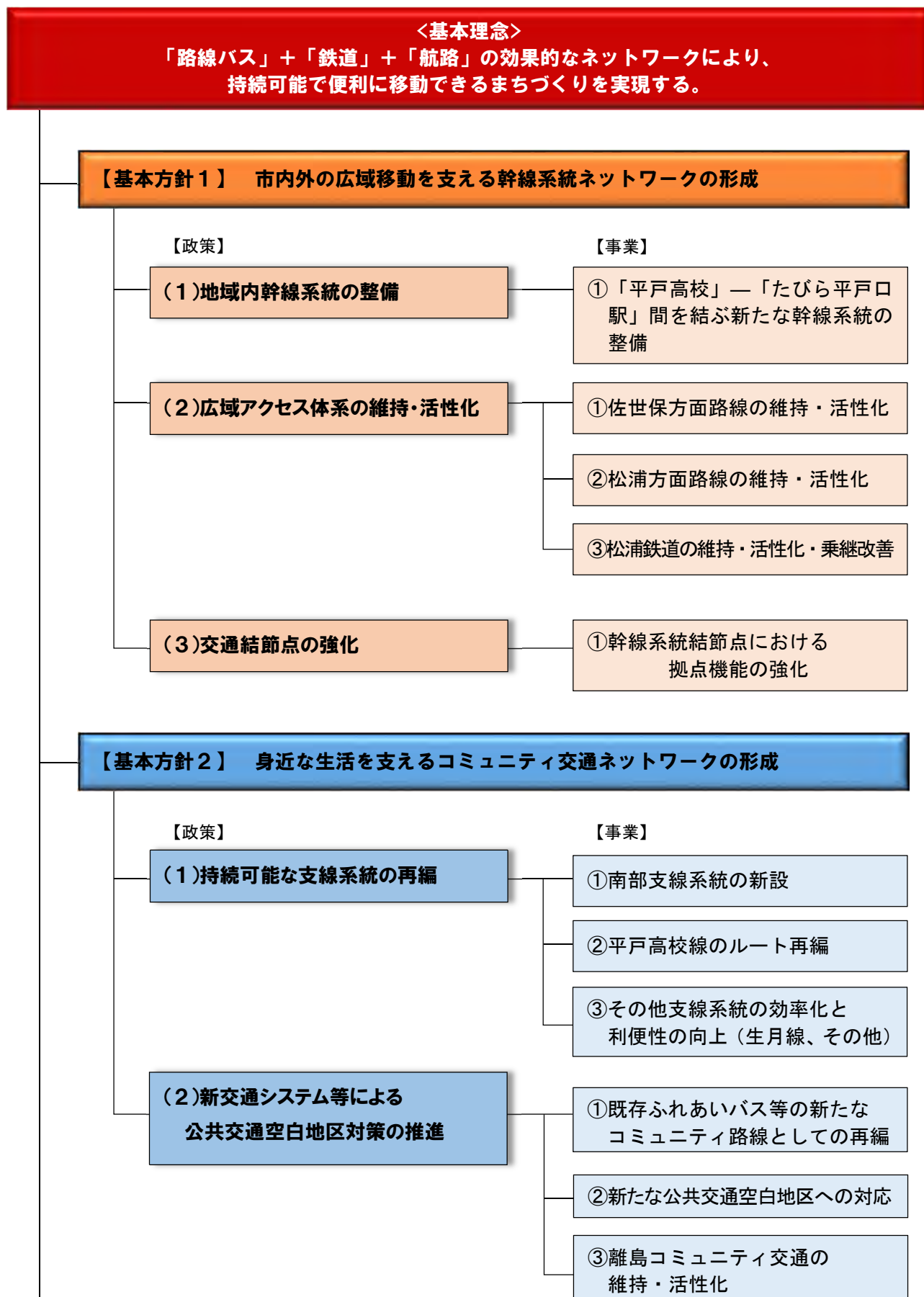
※1：往路、復路の単純平均値

※2：路線バスの利便性について「便利」、「どちらかといえば便利」、「普通」の合計

6. 目標達成のための施策展開

(1) 施策体系

平戸市地域公共交通網形成計画の施策体系



【基本方針3】 離島と平戸島を安全で快適に結ぶ海上交通ネットワークの形成

【政策】

(1) 島民ニーズを踏まえた
利便性の向上

【事業】

① 利用者ニーズに対応した
ハード・ソフトの改善

(2) 省エネ船舶へのリプレイス

① 度島航路のリプレイス検討

② 津吉航路のリプレイス検討

【基本方針4】 持続可能な公共交通のための利用促進と市民意識の啓発

【政策】

(1) 公共交通に関する
情報発信の充実

【事業】

① WEBサイト等による
情報発信の充実

② 外国人向け多言語対応

(2) 利用促進事業の展開

① 利用促進事業の展開

② 免許返納施策、健康
・福祉施策等と連携した利用促進

(3) バリアフリーなどに対応した
車両導入

① 計画的な車両更新

(4) ホスピタリティの充実

① おもてなし意識の醸成

(2) 施策内容

【基本方針1】 市内外の広域移動を支える幹線系統ネットワークの形成

(1) 地域内幹線系統の整備

①「平戸高校」―「たびら平戸口駅」間を結ぶ新たな幹線系統の整備

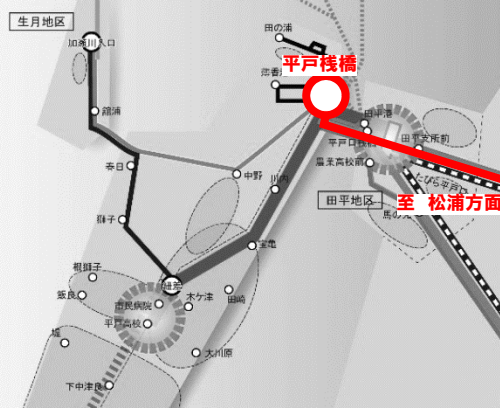
事業概要	- 本市の市内交通の幹線系統として、現行の志々伎・宮の浦線を再編し、平戸高校―たびら平戸口駅を結ぶ地域内幹線系統を整備する。(—) - 志々伎・宮の浦地区の学生に配慮し、上記幹線系統とは別に、宮の浦―平戸営業所の系統を整備する。(—)	
対象路線	- 志々伎線 - 宮の浦線	
実施主体	交通事業者	
実行程	- 平成31年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） - 平成32年度～：実施、点検評価・見直し	

(2) 広域アクセス体系の維持・活性化

①佐世保方面路線の維持・活性化

事業概要	現行の佐世保―平戸線の維持・活性化を図るため、利用者ニーズに配慮した便数の維持及びダイヤ調整を継続的に行うとともに、関係機関が一体なった速達性の向上に向けた検討や利用促進策を実施する。	
対象路線	佐世保―平戸線	
実施主体	交通事業者	
実行程	平成31年度～：実施	

②松浦方面路線の維持・活性化

事業概要	・ 現行の松浦—平戸線の維持・活性化を図るため、利用者ニーズに配慮した便数の維持及びダイヤ調整を継続的に行うとともに、関係機関が一体となった利用促進策を実施する。	
対象路線	・ 松浦—平戸線	
実施主体	・ 交通事業者	
実施行程	・ 平成 31 年度～：実施	

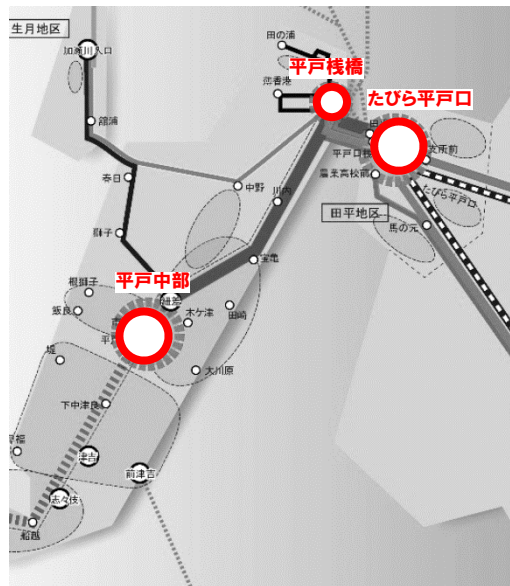
③松浦鉄道の維持・活性化、乗継改善

事業概要	・ 利用者ニーズに配慮した便数維持を基本に、関係機関が一体となった利用促進策を実施する。 ・ 路線バスや定期航路との乗継利便性に配慮したダイヤ調整等を行う。	
対象路線	・ 松浦鉄道線	
実施主体	・ 交通事業者	
実施行程	・ 平成 31 年度～：実施	

(3) 交通結節点の強化

① 幹線系統結節点における拠点機能の強化

事業概要	(平戸中部) - 平戸島中部の新たな交通結節点として、紐差・平戸高校周辺に各支線系統との結節点を整備する。 - 交通結節点は、既存施設や低未利用地等を活用し、必要なハード・ソフトの導入を図る。 (たびら平戸駅) - 路線バスと鉄道の接続地点として、たびら平戸駅を活用した拠点機能の強化を図る。 (平戸棧橋) - 既存の交通結節点としての環境整備に努める。
対象路線	-
実施主体	・ 交通事業者
実施行程	- 平成 31 年度：詳細検討・準備 - 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し

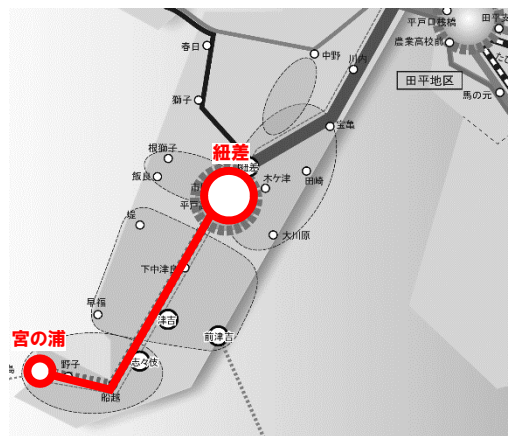


【基本方針 2】 身近な生活を支えるコミュニティ交通ネットワークの形成

(1) 持続可能な支線系統の再編

① 南部支線系統の新設

事業概要	- たびら平戸駅—平戸中部（紐差）を結ぶ新たな幹線系統の整備にあわせ、南部の準幹線的な役割を担う支線系統を整備する。 - 運行区間は宮の浦—紐差とし、バス車両を利用した定期運行を基本に運行体系を検討する。
------	---



対象路線	・ 志々伎線 ・ 宮の浦線
実施主体	・ 交通事業者
実施行程	・ 平成 31 年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） ・ 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し

②平戸高校線のルート再編

事業概要	・ 平成 32 年 10 月 31 日開通予定の春日トンネルの整備にあわせ、現行の生月—平戸高校線の運行ルートの見直しを行う。 ・ 本路線は生月から世界遺産・春日集落へのアクセスルートとしても活用を図るものとし、関連他路線とのダイヤ調整などを行う。	
対象路線	・ 生月—平戸高校線	
実施主体	・ 交通事業者	
実施行程	・ 平成 31 年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） ・ 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し	

③その他支線系統の効率化と利便性の向上

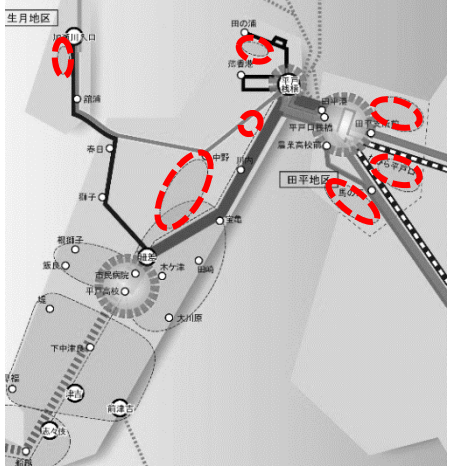
事業概要	・ 既存の各支線系統の効率化と利便性の向上を図るため、便数及びルート見直し、ダイヤ調整、車両更新、運行モード見直し等の必要な改善策を実施する。	
対象路線	・ 田の浦・薄香線 ・ 御崎線 ・ 生月平戸線	
実施主体	・ 交通事業者 ・ 平戸市	
実施行程	・ 平成 31 年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） ・ 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し	

(2) 新交通システム等による公共交通空白地区対策の推進

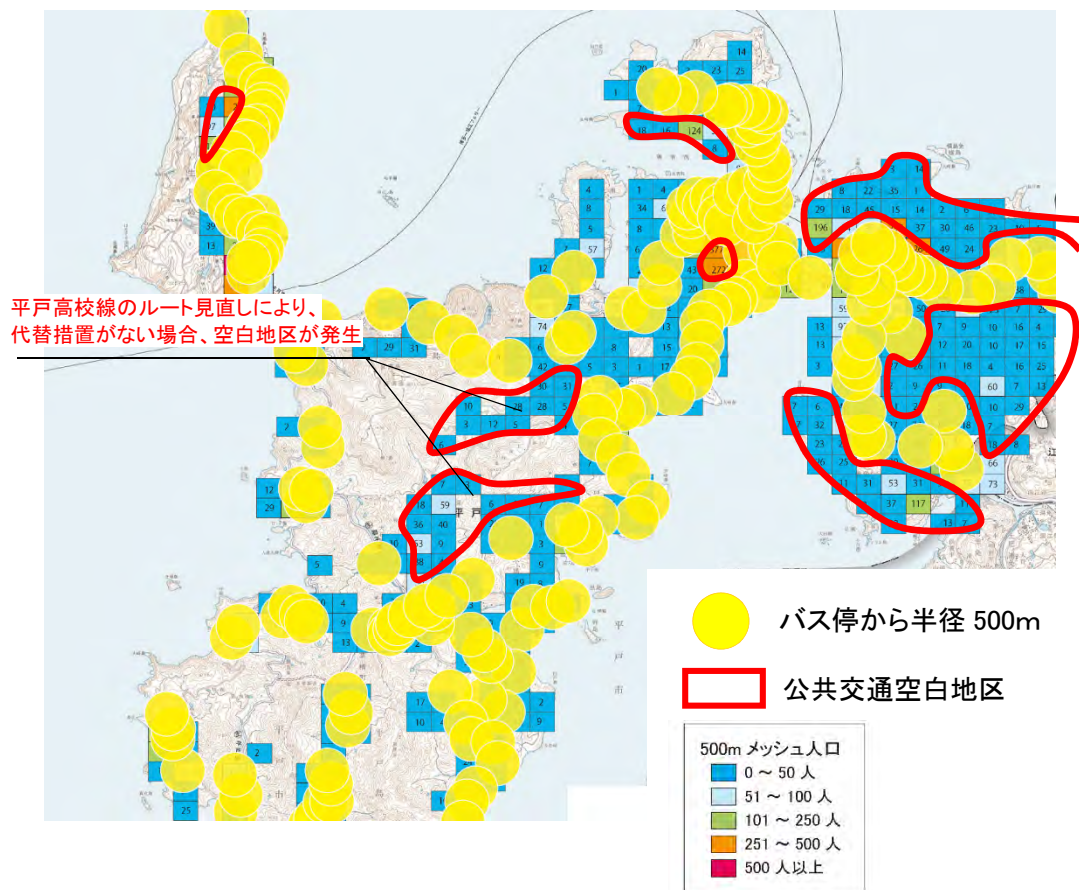
①既存ふれあいバス等の新たなコミュニティ路線としての再編

事業概要	・ 現行のふれあいバス及び志々伎乗合バスを再編し、より効率的で利便性の高いコミュニティ交通路線を整備する。 ・ 運行方法は予約制デマンド運行等の導入を検討するほか、スクールバスの一般混乗も併せて検討を行う。 
対象路線	・ 南部ふれあいバス（市営） ・ 中部ふれあいバス（市営） ・ 志々伎乗合バス（Aルート・Bルート）
実施主体	・ まちづくり運営協議会 ・ 交通事業者 ・ 平戸市
実施行程	・ 平成31年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） ・ 平成32年度～：実施、点検評価・見直し

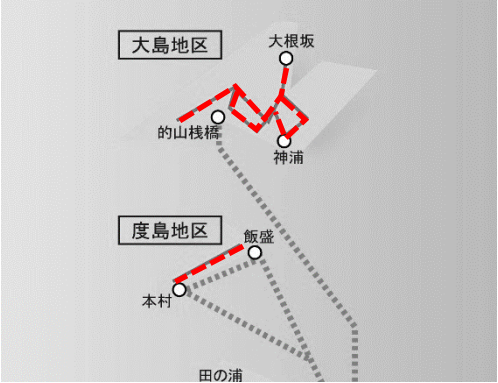
②新たな公共交通空白地区対策への対応

事業概要	- 既存の路線バスのバス停から離れた地域や、急傾斜地などのバス停までの移動が困難な交通空白地区について、路線バスのバス停や駅など交通結節点までの移動を支える新交通システム等の導入を図る。 - 運行方法等は、予約制区域運行方式など効率的で利便性の高いものとし、具体的にはまちづくり運営協議会と連携して検討を行う。 - また、既存バス路線の再編により交通空白地区となる地域についても同様の対応を行うものとする。 
対象路線	公共交通空白地区（田平地域、中野地域など）
実施主体	- まちづくり運営協議会 - 交通事業者 - 平戸市
実施行程	- 平成 31 年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） - 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し

路線バスのルート変更により発生する公共交通空白地区



③離島コミュニティ交通の維持・活性化

事業概要	・ 大島及び度島島内を運行する交通体系の維持活性化を図るため、利用状況や需要に応じた運行形態（乗降方式等）の継続的な見直しを行う。 
対象路線	・ 大島循環線 ・ 板の浦線 ・ 度島島内線
実施主体	・ まちづくり運営協議会 ・ 交通事業者 ・ 平戸市
実施行程	・ 平成 31 年度：詳細検討・準備（再編事業の適用を含めた検討） ・ 平成 32 年度～：実施、点検評価・見直し

【基本方針３】 離島と平戸島を安全で快適に結ぶ海上交通ネットワークの形成

（１）島民ニーズに合わせた利便性の向上

①利用者ニーズに対応したハード・ソフトの改善

事業概要	・ 船内や待合所などの環境整備など、利用者ニーズに配慮したハード・ソフト両面の改善を図る。
対象路線	・ 大島航路 ・ 度島航路 ・ 津吉航路 ・ 高島航路
実施主体	・ 交通事業者（航路） ・ 平戸市
実施行程	・ 平成 31 年度～：段階的实施、点検評価・見直し

（２）省エネ船舶へのリプレイス

①度島航路のリプレイス検討

事業概要	・ 安全で安定的な運航と燃料費及び修繕費などの経費削減を図るため、老朽化する使用船舶の計画的なリプレイスを行う。	
対象路線	・ 度島航路	
実施主体	・ 交通事業者（航路） ・ 平戸市 ・ 長崎県 ・ 国	
実施行程	・ 平成 33～36 年度：航路改善計画の策定、建造	

②津吉航路のリプレイス検討

事業概要	・ 安全で安定的な運航と燃料費及び修繕費などの経費削減を図るため、老朽化する使用船舶の計画的なリプレイスを行う。 
対象路線	・ 津吉航路
実施主体	・ 交通事業者（航路） ・ 平戸市 ・ 長崎県 ・ 国
実施行程	・ 平成 33～36 年度：航路改善計画の策定、建造

【基本方針４】 持続可能な公共交通のための利用促進と市民意識の啓発

（１）公共交通に関する情報発信の充実

①WEBサイト等による情報発信の充実

事業概要	市民はもとより国内外の来訪者が公共交通を便利に利用できるよう、WEBサイト等を活用した情報発信の強化を行う。	
対象路線	市内全路線・航路	
実施主体	- 交通事業者 - 平戸市	
実施行程	平成31年度～：段階的实施、点検評価・見直し	

②外国人向け多言語対応

事業概要	今後増加が期待される外国人観光客が公共交通を便利に利用できるよう、利用方法やルート・ダイヤなど情報面についての多言語対応を行う。	
対象路線	市内全路線・航路	
実施主体	- 交通事業者 - 平戸市	
実施行程	平成31年度～：段階的实施、点検評価・見直し	

(2) 利用促進事業の展開

① 利用促進事業の展開

事業概要	・ 周遊きっぷの開発や観光関連セット商品の開発など、各種の利用促進事業の展開を図る。	
対象路線	・ 市内全路線・航路	
実施主体	・ 交通事業者 ・ 平戸市	
実施行程	・ 平成 31 年度～：段階的实施、点検評価・見直し	

② 免許返納施策、健康・福祉施策等と連携した利用促進

事業概要	・ 市民の利用促進を図るため、免許返納と連携した利用促進のほか、健康・医療・福祉施策や商業施策等と連携した情報発信・利用促進策を導入する。	
対象路線	・ 市内全路線・航路	
実施主体	・ 交通事業者 ・ 平戸市	
実施行程	・ 平成 31 年度～：段階的实施、点検評価・見直し	

（３）計画的な車両更新

①計画的な車両更新

事業概要	安全で快適な移動を実現するため、老朽車両の計画的な更新を行う。	 (イメージ：西肥自動車ノンステップバス)
対象路線	・ 市内全陸上交通路線（路線バス、新交通システム）	
実施主体	- 交通事業者 - 平戸市	
実施行程	・ 平成 31 年度～：段階的实施、点検評価・見直し	

（４）ホスピタリティの充実

①おもてなしの意識醸成

事業概要	市民や来訪者に気持ちよく公共交通を利用してもらうよう、ドライバーや船員、窓口従業員等の全ての従業員を対象に、ホスピタリティ向上に向けた研修や意識啓発など必要な取り組みを行う。	
対象路線	・ 市内全路線・航路	
実施主体	- 交通事業者 - 平戸市	
実施行程	・ 平成 31 年度～：段階的实施、点検評価・見直し	

7. スケジュール

バス路線再編など詳細な検討や地元の合意形成が必要な事業は、平成 31 年に再編実施計画を策定し、平成 32 年度からの事業実施を図る。その他の事業については、平成 31 年度より段階的な実施を図る。

施策の実施スケジュール

(◎)再編事業の適用検討

基本方針	施策		事業			H31	H32	H33	H34	H35	H36
						2019	2020	2021	2022	2023	2024
全体方針						再編実施計画策定予定					
【基本方針1】 市内外の広域移動を支える幹線系統ネットワークの形成	(1)	地域内幹線系統の整備	①	「平戸高校」―「たびら平戸口」間を結ぶ新たな幹線系統の整備	◎	詳細検討	実施・点検評価	→	→	→	→
	(2)	広域アクセス体系の維持・活性化	①	佐世保方面路線の維持・活性化		実施・点検評価	→	→	→	→	→
			②	松浦方面路線の維持・活性化		実施・点検評価	→	→	→	→	→
			③	松浦鉄道の維持・活性化・乗継改善		実施・点検評価	→	→	→	→	→
	(3)	交通結節点の強化	①	幹線系統結節点における拠点機能の強化		→	実施・点検評価	→	→	→	→
【基本方針2】 身近な生活を支えるコミュニティ交通ネットワークの形成	(1)	持続可能な支線系統の再編	①	南部支線系統の新設	◎	詳細検討	実施・点検評価	→	→	→	→
			②	平戸高校線のルート再編	◎	詳細検討	実施・点検評価	→	→	→	→
			③	その他支線系統の効率化と利便性の向上	◎	詳細検討	実施・点検評価	→	→	→	→
	(2)	新交通システム等による交通空白地区（不便地区）対策	①	既存ふれあいバス等の新たなコミュニティ路線としての再編	◎	詳細検討	実施・点検評価	→	→	→	→
			②	新たな交通空白地区対策の推進	◎	詳細検討	実施・点検評価	→	→	→	→
			③	離島コミュニティ交通の維持・活性化	◎	詳細検討	実施・点検評価	→	→	→	→
【基本方針3】 離島と本土を安全で快適に結ぶ海上交通ネットワークの形成	(1)	島民ニーズを踏まえた利便性の向上	①	利用者ニーズに対応したハード・ソフトの改善		実施・点検評価	→	→	→	→	→
	(2)	省エネ船舶へのリプレイス	①	度島航路のリプレイス検討				航路改善計画策定、建造（時期未定）			
			②	津吉航路のリプレイス検討				航路改善計画策定、建造（時期未定）			
【基本方針4】 持続可能な公共交通のための利用促進と市民意識の啓発	(1)	公共交通に関する情報発信の充実	①	WEBサイト等による情報発信の充実		→	実施・点検評価	→	→	→	→
			②	外国人向け多言語対応		→	実施・点検評価	→	→	→	→
	(2)	利用促進事業の展開	①	利用促進事業の展開		→	実施・点検評価	→	→	→	→
			②	免許返納施策、健康・福祉施策等と連携した利用促進		実施・点検評価	→	→	→	→	→
	(3)	バリアフリーなどに対応した車両導入	①	計画的な車両更新		→	実施・点検評価	→	→	→	→
	(4)	ホスピタリティの充実	①	おもてなし意識の醸成		→	実施・点検評価	→	→	→	→

平戸市地域公共交通網形成計画

【 概 要 版 】

平成31年3月

平 戸 市